２０１６年（平成２８年）８月２４日（水）　第７回　例会　（通算２７１３回）

Weekly Report No.2598

Rotary International District2580

石垣ロータリークラブ

人類に奉仕するロータリー

地区ガバナー：上山　昭治氏

「出会いを大切に」

RI 会長：ジョン・F・ジャーム

Rotary 石垣ロータリークラブ

石垣ロータリークラブ55年のあゆみ　1968～1969年度

八代会長　糸洲　長勝

副会長	向井　信雄	幹事	下地　恵光
副幹事	荒木　松太郎	会計	西大　正英
会場監督	富川　盛博	ｸﾗﾌﾞ奉仕	
社会奉仕	宮良　高施	職業奉仕	西里　松太郎
国際奉仕	山川　実		

●宮古島台風災害義援金を平良 RC を通して贈る
●医師不足に対する八重山 JC 医師獲得世論喚起パレードに協力。

≪社会情勢≫

1969 年
・沖縄本島－先島間の UHF 回線開通
・史上最高の交通事故車輌の急増と貧弱な道路行政
・尖閣列島に油田
・岡崎市と石垣市が親善提携。学童の交流がきっかけで岡崎市と石垣市が親善都市の縁結び、発展と平和を誓い合う。
・お医者さんやーい、深刻な医療事情をかかえた八重山は医師不足が大きな悩み

1968～69 年度　RI会長
東ヶ崎　潔
（日本・東京RC）

※日本から出た初の RI 会長。米国サンフランシスコで生まれ、成人してから長く日本で暮らしました。「ジョージ」という名で、世界中のロータリアンに親しまれました。

【RIテーマ】

PARTICIPATE!

参加し敢行しよう！

会　長　：前木　繁孝　　副会長：大浜　一郎　　幹　事　：前原　博一
副幹事：宮城　早人　　SAA・出席：遠藤　正夫　　情報・会報：宮良　薫

例会日　水曜日　12:30～13:30
例会場　ホテル日航八重山（0980）83－3311
事務局　〒907-0013 石垣市浜崎町 1-1-4
TEL/FAX（0980）83－2917
URL　http://ishigaki-rotary.jimdo.com
E-mail　ishirotary@ninus.ocn.ne.jp

ー・ー・ー 第2712回　2016年8月10日（水）　例会報告 ー・ー・ー

■司会進行：　我那覇　宗広
■ロータリーソング：手に手つないで・四つのテスト
■ソングリーダー：遠藤　正夫
■ゲスト：小山　裕美子氏（八重山農林水産振興センター）
■ビジター：小野　博文氏（東京セントラルパークRC）
■メークアップ：小底　厚子・小林　昌道
■出席報告

会員総数　41名　出席義務会員　40名
出席数　24名　欠席数　16名
出席率　60.00%（8月通算出席率　62.50%）

本日のにこにこ

	小　計	累　計
BOX	¥3,000	¥31,000
コイン	¥2,624	¥34,879
合　計		¥65,879

○本日卓話の伊盛様、受賞まことにおめでとうございます。又、ビジターの小野様、お待ちしていました。（前木　繁孝）

○伊盛さん、グランプリ受賞おめでとうございます。（前原　博一）

○伊盛さん、グランプリ受賞おめでとうございます。（仁開　一夫）

委員会・会員からの報告

◇木村　久美子会員

今日は既に皆さんご存知かと思いますが、プラセンタについてパンフレットをお持ちしましたので、ご利用なさって下さい。日本人の女性の出産後の胎盤から取ってあるので、非常に安全性の高い物です。最初これを知った時に、これから医者がいらなくなる時代が来たなと思って、失業のイメージばかり自分の中で暗く思い描いてしまって、これは大変な事になったと思いました。この薬がなぜか美容関係にしか広まっていないので、今のところ医者を失業しなくて良かったなと安心している次第です。B型、C型肝炎、肝硬変の方は保険も使えます。それ以外の方は自費となります。

◇大浜　一郎会員

去った31日に李登輝元総統をお迎えして、講演会を行いました。講演会には約400名、レセプションには約200名の方にご参加頂きました。本当にありがとうございました。お元気でお帰りになった事を本当に嬉しく思っております。

実は李登輝元総統がこちらに来るのには、友好クラブである台北大同RCのメンバーに大変ご尽力いただいた事をご報告しておきたいと思います。

会長挨拶：前木　繁孝

本日は東京セントラルパークRCから小野さんがお見えになっております。彼は設計を生業としております。たまたま石垣で2カ月ほど前から私どもからの仕事で打合せをしながら、時々来島されています。今日はぜひ日にちを合わせて来て下さいという事で、水曜日に合わせて出張されてきました。東京セントラルパークRC、賑わいのある楽しいクラブと聞いておりますので、どなたか東京に行かれた際には、メイクアップに訪れてほしいと思います

本日は卓話を伊盛牧場経営の伊盛さんにお願いしております。この度素晴らしい賞を受賞されました。まずは本当におめでとうございます。

日本の農業と地域の活性化を応援する第65回全国農業コンクールで、我が石垣RC会員の伊盛社長が見事グランプリ、毎日農業大賞として選ばれました。伊盛牧場は酪農や生乳を使ったジェラートの販売をしています。石垣の過酷な環境の中、特に夏の環境は乳牛にとって本当に厳しいと思います。それらを本当に工夫に工夫を重ねて、独自の酪農技術を確立し経営をされています。他にも様々な工夫で地域経済に貢献したという、その貢献度の大きさが高く評価され、今回の受賞に至ったものだと耳にしております。本日はその辺りにも触れて頂きながら、我々も農業の一端に、酪農の一端に触れさせて頂ければと思います。有意義な会員卓話になるものと期待しております。

会員卓話：伊盛　米俊氏

農業生産法人(有)伊盛牧場　代表取締役

～全国農業コンクールグランプリ受賞報告～

去った6月30日に全国農業コンクールという大会がありまして、それに参加してグランプリを受賞しました。通常は畜産、果樹等々、分野が分かれてコンクールがありますが、この大会は全ての分野の農業コンクールという事で、65回を迎えたハードルの高いコンクールと言われています。まず全国からエントリーされた皆さんから20県(20代表）が書類選考、現場調査等を経て、選ばれます。選ばれた20名が発表する舞台に立てるわけです。そしてその中で10名が優秀賞、その上に名誉賞が10名、名誉賞と一緒に農林水産大臣賞が付いてきます。その中で伊盛牧場がグランプリを頂きました。私の発表は18番目でしたが、全国からのそうそうたるメンバーで、私が参加していいのかなと心配しましたが、グランプリという評価をもらいました。戦後65回目ですが、沖縄県は一度も貰った事がないという賞で、県の小山さんと鉢巻撒いて絶対取るという意気込みで、準備をしてきましたので、県挙げての受賞でした。これから大会で発表した内容を披露したいと思います。

私の牧場がある石垣島は東京から飛行機で約 3時間の位置にあります。那覇よりも台湾が近いという、日本の南の果てにあり、何かと輸送費がかかる地理的に不利な島です。石垣島は青い海、鮮やかな花々に囲まれた自然豊かな島で、観光地としても知られています。また独特な風習や文化が受け継がれ、芸能の島とも呼ばれています。

次に酪農事情ですが、この南国でホルスタインを飼うのは簡単な事ではなく、2 戸の農家で年間1,000 トンの生乳を生産しています。

それでは私の経営について紹介します。私は15歳の頃、海の見える丘で、海や夕日を見ながら仕事がしたいと思った事がきっかけとなり、台風にも強く景色がいいのは牧場だと考え、和牛 1 頭から始めました。その後、公団事業により牛舎を整備しましたが、和牛子牛の相場は散々たる物でした。そこで当時の学校給食では牛乳が不足していたことから、平成 2 年に酪農分野に参入しました。がしかし、石垣島は乳牛の限界温度である27℃を超える期間が半年以上も続き、乳牛にとって過酷な環境です。当時の牛舎では十分な暑さ対策が取れず、乳量も伸び悩んでいました。さらに効率が悪い搾乳作業に追われ、理想とする酪農を追求できずにいました。このやり方に限界を感じていた時に、市の担当者から牛舎整備の話を持ち掛けられ、これに賭けるしかないと覚悟を決め、平成17年に現在の牛舎を整備しました。牛舎整備においては、西日の入りや風向きに徹底してこだわりました。また Cow マットや送風機、ミストを設置したり、快適に過ごすための工夫をこらしました。さらに乳牛の作業効率を上げるために、パイプラインミルカーを導入しました。一方朝の搾乳時間は午前 9 時からとしています。なぜなら朝が早いイメージの酪農から脱却し、労働条件をサラリーマン並みとする事で、人材不足の石垣島で従業員確保に努めています。後継牛については、以前は北海道から導入していましたが、涼しい環境で育った牛は消耗が激しく、事故も多発し導入費用だけが高くつくという事態に陥りました。そこで現在では生まれも育ちも石垣島産とし、かつ雌を産ませる技術を確立させ、計画的な交配を進めました。その結果、生まれた時から暑さに強い、自家産の後継牛で構成しています。そもそも本土と同じ飼い方では風土、気候が違う石垣島では無理があったのです。本土の真似ができないという事は、ここでのやり方も真似できないという事、つまりオンリーワンを追求する事こそ、酪農で生き残っていく秘訣だったのです。

その為、牛の餌でもオンリーワンを追求しました。酪農後、購入した農地はぺんぺん草も生えな

いと言われた畑でした。そこで「良い土は利益を生み出す」をモットーに、堆肥は全て畑に還元しています。牧草は本土で栽培されている牧草より収量が 3 倍も高い、ローズグラスを生産しています。但し収穫適期が短いため、適期を逃さぬよう牧草地は牛舎周辺に集約し、収穫作業は自ら行っています。それ以外の作業は機械への過剰な投資を避けるため委託しています。その結果、粗飼料自給率は 100％と完全自給を実現しています。一方石垣島は輸送コストが余計にかかります。また台風の時には物流がストップして何日も飼材が入って来ません。ただ幸いにも和牛が盛んな石垣島なので、単味の飼料であれば台風の時でも入手可能です。その為リスクも価格も高い乳牛用の濃厚飼料ではなく、単味資料を自家配合して給餌しています。粗飼料の完全自給率と自家配合によって離島のハンディを克服しました。このような工夫を重ねた結果は、乳量も年間 2,000 キロ以上もアップしました。夏場でも 1 日量、20 キロ以上、乳脂肪 4％と本土にも負けない品質を維持しています。乳量だけでなく乳質や牛の負担を考えながら石垣島の気候風土に合った、オンリーワン酪農モデルを達成した成果です。

また私の牧場の牛乳を石垣島のたくさんの子ども達が給食で飲んでいます。その一方で輸送コストが高くなっても乳価がここ 30 年ずっと変わらず、先行きに不安を感じていました。そこで経営の多角化を図りながら、収益を確保することは出来ないものかと考え、15 歳のころ夢を描いたあの丘に、自前で加工販売所をオープンさせました。店舗名をミルクの「ミル」と景色を「見る」でミルミル本舗と命名し、牛乳 100％を売りにしたジェラートを販売しています。ところで、石垣島にはマンゴーなどの特産物が豊富にあり、石垣島ブランドとして県内外に出荷されています。その一方で台風によって本土へ輸送できなかったり、規格外品が出てしまう課題があります。そこでこれらに目を向け、このまま廃棄するのではなく、ジェラートの原料として買い取る仕組みを構築しました。地域の 1 次産業の発展に貢献すべく、また雇用創出の場となるようミルミル本舗が担う役割は大きいと考えています。

息子夫婦である若い人材が、石垣島ならではの魅力的なジェーラ―トメニューを開発しました。石垣島でしか味わう事の出来ない、本物の味が観光客のみならず、地元の人にも好評です。一方乳量が落ち、経営の足を引っ張っていた牛はお金を出して処分していましたが、ミルミル本舗を整備したことで、精肉用の原料に回せるようになりました。これを原料に商品化したミルミルバーガーは経営の多角化によって生み出された産物と言えます。結果として淘汰牛処分にかかるコストやバーガー販売による収益アップかつ暑さに強い乳牛の改良効率にも繋がりました。乳用として役目を終えた後も肉用として利用する、独自の経営スタイルを構築した事で、石垣島の生産環境に合った酪農経営がここに実現した事になります。

石垣島の新たな名所となったミルミル本舗は空港に 2 号店を構えた事もあって、年間の売り上げは 3 年前の 5 倍となっています。嬉しい悲鳴ではありますが、ミルミルバーガーの売れ行きが好調のあまり、原料不足が生じています。その為、自社製品の相談も供給体制を理由にお断りしたり、店舗が手狭でお客様にご迷惑をおかけするなど想定外な展開に直面しております。次なる一手として 6 次産業認定を受け、新たな加工販売所を現在建築している所です。さらに F1 肥育によって精肉生産を安定的に供給できる体制を早急に構築させたいと考えています。

その一方でこれまで経験した苦労や培ったノウハウ、農業に対する想いを伝えながら担い手の育成にも力を注いでいます。またミルミル本舗は沖縄県知事より沖縄食材の店に認定されました。地元の生産者や女子高生が商品化した加工品も取り扱う事で、地元経済の循環にも貢献させて頂いております。私の牧場では女性従業員が 13 名従事していますが、子育て世代でも安心して働けるよう短時間勤務のシフトが選べます。子育てと両立できる労働環境を整える事で新規雇用の創出の場となるよう、地域社会と結びついた経営を心がけて

います。

15 歳の頃に夢を描いた丘にはミルミル本舗が建っています。ここから眺める景色はまさにオンリーワンです。これからも 1 次産業を大事に考えオンリーワンな酪農経営に石垣島の魅力をどんどん取り入れて、石垣島の素晴らしさを発信しながら地域社会と共に発展していきたいと思います。

県の皆さんと協力して原稿を作りまして、大阪の大阪公会堂、国の重要文化財の場所で発表しました。700 から 800 名の皆さんが来場しての発表でしたが、この色鮮やかな写真を見て、ぜひ石垣島に行きたい、というような効果もありまして、なかなかいい発表だったと思います。これからも努力していきますので、皆さんのご協力もよろしくお願いします。

質問１．乳牛から廃用牛になるまでの流れは？

まず最初に 16 カ月育成します。それから種を付けて 10 ヶ月間妊娠させて、お産と同時に搾ります。お産後、すぐ種を付けます。搾りながら種を付けるので、牛の身体のバランスも崩れるし、消耗が激しいんです。全国平均で 2.7 産したら廃棄というようなデータです。普通は種が付かなかったらホルモン剤を打ったり、いろんな処置をして、すぐ付くような対策を取りますが、我々の場合は体調が戻って自発的に付くまで待ちます。無理をさせないでのんびり付けて、どうしても付かなくなった時に肉の廃用になってきます。

これまでは北海道から妊娠した牛を 11 月頃、寒い時に連れて来ます。3 月、4 月頃に出産予定でやりますが、気温差が 40℃くらいありますので、牛が持たないです。それでは大変なので、石垣島産の牛を育成していこうという事で、雌雄判別精液というのが近年出ていまして、それに取り組んで成功しています。うちの乳牛の牛は雌しか生まれないです。それが成功する前は雄が生まれるのか、雌が生まれるのか分からない。雄が生まれると大赤字になります。少し受胎率は下がりますが、オスが生まれる事を考えると断然いいですので、それに手がけて今北海道から 1 頭も入れていません。全部自家産の牛で賄っています。

質問２．乳しぼりが出来なくなった牛は肥育するんですか？

肥育しません。牛舎がある程度限られていますので、肥育するとコストがかかります。それまでにある程度太らせます。乳牛と言うのは自分の食べる分は稼ぐので、稼げなくなる分岐点があるので、下回った牛は淘汰すると、残酷ではありますが肉用にします。

質問３．子ども沢山産んだりとか、沢山乳を搾ると味が落ちると言われていますが、ミルミルのハンバーグは美味しいけど、和牛とかも混ぜているんですか？

基本的には地元の肉を使うと言う事ですので、和牛の老廃等使いますが、和牛の場合は 10 産とか取りますので、年齢が行き過ぎて、乳牛の場合は平均 2.7 産ですので、だいたい 5・6 才なんです。だから肉的にもいいんじゃないかと思います。

質問３．土づくりで苦労された点はありますか。

うちの牧場はぺんぺん草も生えないと言われたような牧場でして、農家の皆さん取らなかったんです。冨崎の辺りの土地はあまり良くないんです。実際植えてみて確かにそうでした。幸いうちは牧場でしたので、堆肥が生産できますから、それを全部還元するようにしました。琉大の農学部の教授が全国、北海道から沖縄まで粗飼料、草の生産調査をしまして、乳牛で完全自給でやっているのは、たぶんうちだけと、残りは外国産の草で賄っている。今回の農業部門での評価と言うのは、粗飼料生産自給率 100%という事がかなり大きかったのではないかと思います。確かに堆肥入れた所と入れない所、全然違いますので、農業の基本は土づくりかなと言うのは、改めて実感している所です。

質問４．今作っている施設はどのようになっていくんですか？

今ミルミル本舗の隣に大多数は加工所ですが、この施設は農林水産省の 6 次産業ハード事業で設立しています。土地改良の所に造っていますが、皆さん農地に造って良いのか？というようなご指摘もありますが、6 次産業の認定を受けますと、

施設の使用緩和とかいろいろありまして、それに則って造っています。ジェラートの部門と精肉の部門、それと時期でマンゴー、パイン、それを加工するのも足りないので、一次加工所と肉とかを使ってのレトルトとかの設備、石垣島の果物を使ったスイーツの開発のスペース、尚且つ農家が小ロットで作っている商品を協力して、場所を提供して売りましょうというような事で販売所も設立しています。

質問５．親と全く違う道を選択した動機

丘へ登った時に馬で行ったんです。うちのゆかりの土地でもない、そこを上った時に景色を見て、こういう所で何かをやってみたいと思ったんです。馬が好きだったので、馬を飼えるような仕事、馬にいつも乗れるような仕事がいいなと思っていましたが、馬ではご飯が食べられないので、とりあえず牛が手っ取り早いと始めたのがきっかけです。

～今後の例会予定～

☆8月31日(水)ゲスト卓話:
　我喜屋　隆氏(石垣市商工会　会長)
☆9月7日(水)会員卓話:
　木村　久美子氏(愛島クリニック　理事長)
☆9月14日(水)→15日(木)に変更
　夜間例会(観月屋台村 in ホテル日航八重山)
☆9月21日(水)ゲスト卓話:
　松田　美貴氏(沖縄シップエージェンシー　会長)

ご参加お願いします！

10月13日(木)～16日(日)

台東東扶輪社訪問の旅

※10月12日(水)例会の振替となります。

～例会風景～

東京セントラルパーク RC の小野さんがメイキャップにご来会下さいました。

グランプリ受賞おめでとう！